

# 平成28年度学校自己評価結果

豊科高等学校

学校教育方針	中・長期目標		
人間尊重の基盤に立って、学習を深め、心身ともに健全で情操豊かな人間形成を目指す。そのために、本校を取り巻く地域社会の特質と生徒の実態をふまえて、次の項目に重点を置く。	1. 自分自身の意見をはっきり持ち、健全でバランス感覚に優れ、社会を支えられる次のような生徒の育成をはかる。 ① 幅広い基本知識を身に付けた生徒 ② 生徒会活動、部活動、HR活動等に積極的に参加する生徒 ③ 清掃・挨拶がしっかりできる、礼儀正しく、基本的な生活習慣の身についた生徒 2. 自分自身で進路を開拓し、成就できる次のような生徒の育成をはかる。 ① 資格取得、ボランティアの実習、体験入学、企業体験などに積極的に臨み、進路実現に意欲的な生徒 ② 知的好奇心旺盛で、自らの学力を高めることにより、進路を実現しようとする生徒		
	今年度の重点目標	評価	成果と課題・改善策
1. 自主性・積極性を育てる。 2. 学力・気力・体力の充実に向上をはかる。 3. 連帯感を培い、社会性を養う。	1. 学習と部活動・生徒会活動の両立を図り、自己の進路実現に向けて努力する生徒を育てる。 2. 基本的な生活習慣が身につく、挨拶や清掃に積極的に取り組める生徒を育てる。 3. いじめや体罰のない安心かつ安全な学校づくりに務める。	B	1. 高校生活の核となる学習・部活・生徒会の充実に向け、相互にプラスに働くように配慮しながら指導できた。が、生徒が自らの進路を開拓するという点は今後も更なる指導が必要。 2. 元気良い挨拶の音が一日中校内で聞かれた。今後は校外にも広げたい。一方清掃についてはまだまだ手を入れるべき点が見られる。 3. 常にアンテナを高くし、困った時に相談しやすい職員集団であるよう、生徒とのコミュニケーションを一層図っていく。

学年	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
1学年	当たり前前（当たり前前）のことが、当たり前前（当たり前前）にできる人材や集団の育成（凡事徹底）	1	学校生活の中で、生徒が常識のある落ち着いた行動をし、各自のやるべきことに責任感を持って取り組んでいるか。	A	問題行動などもなく、基本的な生活習慣が身についている生徒が多い。学年行事でもグループ行動を安心して任すことができた。
	お互いに対し、いたわりと思いやりの気持ちを育成	2	生徒同士がお互いを尊重しあい、いじめのない心地よい仲間関係、集団を築けているか。	A	学年内、各クラス内にいじめの行動などは見られず、友人関係は良好であると思われる。
	日常的な学習による基礎学力の養成	3	予習、授業、復習の流れを維持し、課題や宿題の提出が確実にできているか。	B	家庭学習が不足気味と思われる生徒も見られる。引き続き、学習習慣定着を促す指導が必要である。
	自分の性格や希望に合った進路の探求やそのための指導（多様性の追求）	4	希望の進路を決定するための学習や研究が積極的にできているか。そのための指導は適切にできているか。	B	進路関係の課題にはしっかり取り組み、成果をあげることができた。進路研究の姿勢が更に積極的、主体的になるように指導したい。
2学年	生徒たちの自主・自律の精神の育成 ・・・2nd step	5	自分の役割や立場を自ら考え、クラスマッチ・豊高祭・合唱コンクールなどの各行事に積極的に楽しく参加しているか。	A	各行事に楽しく明るく参加できた生徒が多かっただけでなく、それを運営するための企画や仕事に取り組む中で、自主性が発揮できている場面が多く見られた。
		6	3年生から引き継いだ後のクラブ活動や生徒会活動で、各部署の中心的存在として活躍できているか。	A	役員や委員長の選出をはじめ、本部や各委員会の活動も順調なスタートを切ることができた。
	確かな基礎学力の定着および進路選択に向けての積極的な意識づけ	7	生徒たちが自分の進路を意識する中で、適切な家庭学習の時間をきちんと確保できているか。	B	家庭学習の十分な時間確保という点では課題を残した。関係部署とも協力して更に指導を続けたい。
	8	各種の進路説明会やオープンキャンパス、また研修旅行などを通じて、積極的に自分の進路の方向性を決定することができたか。また、3年次に向けての適切な科目選択ができたか。	B	研修旅行は、進路の方向性を考えさせる良い機会となった。多くの生徒たちが自分の進路について真剣に考え始めているが、反面、進路の方向性が見いだせず、科目選択など悩んでいる生徒も少なからずいる。	
3学年	個々の生徒が温めてきた夢の現実化に向けた各種指導の充実	9	安定した学校生活と落ち着いた学習環境が持続できているか。	A	年次を追うごとに、生徒自身が自覚をもって学習環境を整え維持することができるようになった。
		10	悔いの残らない高校生活を達成するために生徒が各種活動に精一杯取り組んでいるか。	A	クラブ活動、生徒会活動、委員会活動のいずれに対しても大半の生徒が意欲的に取り組んだ。
		11	進路希望の実現に向けて、受験学力を高めるための学習指導ができているか。	B	日々の教科指導はもちろんのこと、AO入試、推薦入試への指導にも多くの教師が力添えをし、満足のゆく成果を得ることができた。また、センター試験に向けての特編授業にあたって、生徒、教師ともに熱心に取り組んだ。

部	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
教務	学習活動や行事運営の円滑な推進	12	日々の学校運営を円滑に行うことができたか。また突発的な事故・大雪等の緊急時に適切な対応ができたか。	B	概ね目標の通り
		13	学年・部会・委員会等からの様々な要望に迅速に対応すると同時に適切なアドバイスができたか。	A	①卒業式の午前実施の決定 ②扇風機の使用規定と講座・クラスの当番業務規程作成 ③考査中の退室規定の見直し ④特別室の利用（特に問題の授受について）規定の見直し その他外部からの意見・要望に対する検討を迅速かつ適切に行った
		14	行事毎にしっかりと反省を行い、次年度以降に活かせる方策・対策を検討することができたか。	B	概ね目標の通り
	開かれた学校作りの推進	15	学校HP等で学校情報を効果的に発信できたか。	B	学校情報をできるだけ迅速に発信した。中学生や地域の方へよりアピール性の高い発信内容、発信方法を検討する。
	16	授業公開・学校説明会を通し、中学生に分かり易い説明を行うと同時に本校の魅力をアピールすることができたか。	A	過去2年分のアンケートを元に説明会資料に”中学生向け教育課程表”、”豊高Q&A集”などを作成し追加。11月の説明会ではほぼ完成した形のものが出来上がった。説明会は教頭と教務主任の2名で分担し効率化を計った	
進路指導	生徒が主体的に自らの在り方生き方を考え、進路を選択できるよう、あらゆる教育活動を通した計画的・組織的な指導の展開	17	生徒が各自の適性を知り、進路選択をするための指導が行えたか。	B	いろいろな機会を通じ、生徒への投げかけができたように思う。
		18	生徒・保護者への適切な情報提供や相談活動が行えたか。	B	概ね良好であるが、文書についてはなかなか各家庭へ届かない面もある。
		19	学習環境を充実させるための支援が十分できたか。	B	家庭学習の習慣を定着させるよう努めていきたい。

部	重点項目	NO	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
生活指導	安心できる学校生活の構築 (問題行動・交通事故等の未然防止)	20	校舎内や学校周辺の巡視が計画的に行えたか。	B	盗難・紛失は少ないので計画的巡視は行なわなかったが、行事等に合わせ係で校内を巡視した。私物の管理が不十分な生徒が増えており、各自の持ち物の整理、管理等をもう少し指導していく必要がある。校外巡視は、文化祭後などに3学年・生活指導部、PTAで協力して行った。
		21	いじめの未然防止に関して、その対応や対策がきちんとなされたか。	B	コミュニケーション手段を情報機器に頼りがちで、生徒同士で誤解を生じてしまうようなケースが増えている。授業評価や学校評価のアンケートの中で、いじめに関する情報を年2回収集した。また、学年会・職員会でも、心配のある生徒に関する情報を交換・共有する時間を設け、いじめの未然防止に努めた。
		22	交通安全指導が的確に行えたか。	B	自転車安全利用モデルの指定校となり、警察と連携して交差点での交通指導を数回行った。自転車に関する道交法の改定もあり、集会での話や啓発文の配布などをして交通安全の意識を高めるよう心がけた。今後も根気強く日常の交通安全に関する指導や情報提供を続けることが重要である。
	地域・家庭との連携	23	学習環境を充実させるための支援が十分できたか。	A	学習環境をより充実させるために、学年合同LHR等を利用して、携帯電話の使用方法について今後も指導し、徹底していく。
		24	地域・他校・警察と連携がとれたか。	A	生活指導委員会安曇支会や学警連絡協議会を通じて、生活指導に関する情報交換をスムーズに行うことができた。他校が関係する事案についても、他校とこまめに連絡をとりながら対処することができた。
生徒会指導	生徒主体の行事の運営 生徒会目標「一繋」に恥じない団結のある生徒会作り	26	各種行事の企画・運営に生徒を主体的に関わらせ、計画的に運営するように指導できたか。特に、第69回豊高祭について指導できたか。	A	夏休み初旬と2学期期末考査前の2回、PTA生活委員会で校外巡視を行った。2回の巡視に延べ17名が出席され、有意義な時間を委員同士で共有できた。考査前には、巡視した場所に本校生徒はいたが、行動に問題は見られなかった。
		27	活発な運動部・文化部の活動運営のための援助	A	第69回豊高祭や合唱コンクール、クラスマッチ等で生徒に自主的に活動させる事ができた。特に豊高祭では「一繋」にふさわしく、生徒会役員ばかりではなく3年生全体が一丸となって、各種企画の準備に取り組む姿が見られた。
	保健・清整	生徒の健康状態の的確な把握と安心安全な学校作り	28	生徒の健康状態について職員の共通理解、連携が図れたか。学年等との会議を適宜実施し、連絡を密にすることができたか。	A
29			生徒の委員会活動による健康教育、教室の環境を整えること等を適切に実施することができたか。	A	保健だより、用具庫当番、衛生用品の補充、健診の補助など、委員が率先して行動できた。今後、冬季の換気は職員の力を借りて実施していきたい。
校内の環境美化		30	生徒が毎日の清掃活動に精力的に取り組めたか。また、適切な指導ができたか。	B	全職員で毎日の清掃活動を指導した。しかし、地域の方や生徒アンケートで、ほこりや汚れを指摘される場所もあったので、来年度は清整委員会とも力を合わせて更に校内美化に向けて努力したい。
		31	ワックスがけ等、校内の環境美化を進めることができたか。	A	年に2回のモップ交換、秋に1度ワックスがけを実施することができた。清整委員も率先して活動することができた。
図書・視聴覚	資料収集と提供	32	蔵書構成や利用をふまえた選書ができたか。	A	生徒、職員の要望に応えつつ、バランスよく、選書することができた。
		33	リクエストや予約の制度が利用できたか。	A	十分に利用することができた。
		34	公共図書館や他校との相互貸借ができたか。	A	公共図書館や他校とも積極的に連携することができた。
	教科との連携	35	授業やHR、文化祭などで図書館の利用が活発になされたか。	B	活発に利用された。しかし、特定の授業、クラス、クラブ、委員会に偏りがちではあった。
		読書推進活動	36	図書館講座や読書週間・朝読書などの行事が予定どおりできたか。	A
	37		資料の紹介・図書の推薦が行われたか。	A	昨年度に引き続き、全職員の協力のもと、『先生たちのおすすめ本』を発行して、図書の推薦を行った。また、「図書館だより」や「Book Paradise」、委員のPOPなどで積極的に資料の紹介を行った。
	利用しやすい放送室の整備	38	放送卓のマニュアルの周知、放送委員の利用法の熟知により、多くの職員や放送委員がより使いやすくなったか。	B	放送委員会における技術伝達のシステムが機能して、2、3年生の委員は放送卓の利用ができるようになってきている。
		39	遮光装置の更新でより使いやすくなったか。	A	廊下側のアルミホイルシート張りや新しいカーテンによって暗室効果は非常に高まった。また、プロジェクターランプの更新で投影画面はかなり明るくなった。全体として整備が進んだ。
	防災	生命を守る危機管理体制の整備	40	平成28年度防災計画の作成・確認はできたか。	B
職員の防災意識の向上		41	危急時に備えた職員の意識を高めることができたか。	B	臨場感を増すために防火扉を初めて閉鎖しての避難訓練を実施したが、業者との連携が不十分でやや緊張感に欠けた。
火災・地震などに対する緊急体制の整備		42	緊急時における職員の初動体制を確認ができたか。	B	机上での確認だけだったので、次年度は避難訓練時にその係ごとに集まって配置や業務内容を確認する必要がある。
		43	防災訓練を実施することにより緊急体制の確認ができたか。	B	緊急体制の確認は机上ではできたが、訓練では不十分だった。初期消火などの実際の場面に沿って訓練を行う必要と職員間の連絡体制を整備し実際に試す必要がある。訓練内容も3年間のローテーションで実施できるよう計画性が必要。
渉外	PTA・同窓会活動の活性化	44	PTA活動に対する保護者の理解と関心を高め、諸行事への参加率を向上させることができたか。	B	・PTA総会への参加率の向上。(期日、日程の工夫) ・地区PTA等での意見要望等の検討結果をどのように保護者に伝えるか。

委員会	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
入学者選抜	確実・効率的な選抜業務の遂行	45	昨年の反省を活かした準備と確実な選抜業務が遂行できたか。		(2月中旬からの作業)
将来構想・学習検討	本校の将来像を考えるための基礎構築	46	本校の現状に関する多様な考えを交換することで、生徒急減期に備えての方向性を論議する基盤ができたか。	C	委員会内の意見交換をしたが、何か手を打たないといけないという方向性だけにとどまった。
		47	本校の現状を理解するために教職員・保護者・生徒に対してアンケートを実施し分析できたか。	B	予定通り実施し、課題が見え、授業改善に役立った。
「総合」運営	進路に関する意識づけと意識固め	48	「総合的な学習の時間」のなかで、高校卒業後の進路について真摯に考え、前向きに取り組むことができたか。	B	本校の生徒たちへの進路の意識づけを進路、学年と連携し、継続して取り組みたい。
人権教育	人権意識の向上	49	人間尊重の意義、及び様々な人権問題についての正しい理解と知識を深める学習ができたか。	A	外見では分からない聴覚障がいについて講演を通して知ることができ、相手の立場に立って考える事につながった。職員人権研修会が実施できた。
		50	互いの個を認め合い、友情を育む学習が行えたか。	B	各教科、学年などそれぞれに継続して学習しているが、教科間で交流をする機会は持てなかった。
教育課程	生徒の多様な進路希望に対応できるように、教育課程のさらなる改善および講座編成等の検討	51	新課程実施において起こりうる様々な問題点・見落とし等を早期に発見し対応策を講じることが出来たか。	B	教育課程の編成については、多岐にわたる進路希望を持った豊科高校生に概ねマッチしている。今後も学年、生徒、進路係等と連携し協力していくことが必要。
		52	「29年度入学生用の教育課程」の検討	B	教育課程の編成が適当であったかしっかりと検証し、29年度入学生用の教育課程の骨格を作れたか。
学校衛生	安全で働きやすい職場環境の整備	53	職員の健康診断を全員実施が達成できたか。	B	定期健康診断の該当者は、全員受診できた。ドック対象の方が、年度末までに、受診できるよう、更に働きかけていきたい。
		54	衛生委員会を定期的に開催できたか。	A	定期的に開催し、勤務時間等について、検討を重ねた。
合宿所運営	・利用しやすい合宿所の整備・運営・移転・新築に向けた使用規定の検討	55	使用規定・手続きの見直し・検討が図られたか	B	H29年12月の新築利用開始に向けて、想定される利用方法に合わせた使用規定の見直しを図っていく。
生徒支援	本校の生徒支援・相談体制のあり方についての検討、改善	56	相談室の活用方法と常駐体制について検討をし、改善することができたか。	C	出来なかった。今後個別の支援（学習面等も含め）が必要な状況が出てきたら、対応が必要になることが予想され、今後の課題である。教室に入れない、学習障がいなどで進路に対応できない等の生徒の居場所を検討する。
		57	保健室対応の急病以外の生徒が授業に出られる支援体制づくり	C	担任が対応するケースが多く、“委員会として”という部分について今後も方向性をさぐる。
		58	現状の生徒に即した内容の研修会を開き、全職員で共通理解ができたか。	B	年度の初めに実施した方が良かった。来年度は「授業のユニバーサルデザイン」について、早期に開催したい。
		59	支援が必要な生徒の早期発見、早期対応ができたか。（担任、各学年の支援委員、特別支援コーディネーター、SSWとの連携を密に）	B	すべてではないが概ね出来つつある。SSW、SCを活用しながら対応するルートも作れてきているように感じる。生活アンケートの実施も早めに行い、その結果を活用できるようにしたい。
セクハラ対策	被害者・加害者にならないためのセクシャルハラスメントの正しい理解推進	60	研修会等、様々な機会をとらえて意識の向上が図られたか。	A	問題事例なし。非違行為防止研修の中でも認識を深めることができた。より気楽に相談できる関係を築いていきたい。
学校評議員校内運営	本校の実情理解とよりよい方向への提言や地域連携の推進	61	授業参観や会合等を通して、本校の現状を理解していただき、より良い方向への具体的な提言をいただくとともに、地域との連携の動きに生かすことができたか。	B	本校の良さを生かし、地域の期待に応える学校運営の推進を後押ししていただく良い機会となった。開かれた学校づくりを今後も推し進めていきたい。
しなの木セミナー運営	進路実現および学力向上のための支援	62	進路実現と学力向上のために有効な講座設定や円滑な運営ができたか。	B	滞りなく運営できた。1、2年次の補習講座も開設され、セミナーが学校全体に定着した。部活動との両立の工夫を検討したい。
いじめ対策	いじめの未然防止・早期発見に向けた生徒指導の取り組みについての研究と実践	63	「学校いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき、未然防止・早期発見の取り組みがなされたか。	B	「学校いじめ防止等のための基本的な方針」の点検ができた。さらに全職員が共通理解できるよう、周知徹底したい。
		64	問題対応とその指導が適切になされたか。	B	アンケート、相談等を生かし情報連携・行動連携のとれた的確な対応ができた。
コンプライアンス	コンプライアンスについて学び、非違行為を出さないための取り組みの研究と実践	65	コンプライアンスについて研修し、非違行為防止のための取り組みが効果的になされたか。	A	本年度も、チェックシートを2回、教科少数人数での事例研修や職員会議での研修を行うことで教職員のコンプライアンスの意識を上げることができた。来年度も引き続き取り組んでいきたい。
図書選定	資料収集と提供	66	蔵書構成や利用をふまえた選書ができたか。	A	生徒や職員の要望には可能な限り応えつつ、バランスよく、選書することができた。